

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370400426		
法人名	社会福祉法人 全人会		
事業所名	グループホーム水沢アリス		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市佐倉河字十日市85 (電話) 0197-51-2151		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	平成21年5月25日

## 【情報提供票より】(平成21年3月24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	23 人	常勤 21 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.1 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,260 円	

### (4) 利用者の概要(3月24日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名				
年齢	平均 84.1 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	奥州病院、木村医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、母体法人の運営するデイサービスのほか、もう一つのグループホームが隣接して設置されている。胆沢川の両岸に広がる田園地帯の中、近くには、一般の住宅のほか温泉施設があり、散歩や行事等を通して交流がなされている。医療(協力病院)との緊密な連携を背景に、利用者・家族の安心が確保され、地域密着型のホームとして、全人的ケアの理念の実現に向けて取り組んでいる。また、利用者の思いや希望をかなえるべく、ケアを通じて自信と確信を得た職員の見守りの中、利用者一人ひとり、身だしなみやおしゃべりに気ばりをしながら、個性豊かに穏やかに過ごしている。開設後6年を経過して、更なる新たな取り組み、情報発信をするなど、地域の拠点としてますます期待される事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「運営推進会議を活かした取り組み」として、会議の開催回数の増や多くの意見を得るべく、引き続き検討を重ねたいとしている。また、「災害対策」に関する、近隣との協力体制づくりについても、引き続き検討していきたいとする。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に当たっては、管理者の作成した案について、全職員がそれぞれ自己点検も併せて目を通し、意見を出し合っている。毎年の自己評価・自己点検を通して、困難ケースへの前向きなケア(全人的ケア)を通して、職員の成長が見られるとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ひな祭り、全人会祭り、月見会、クリスマス会のパーティーに併せて年に4回開催されている。利用者・家族、委員の方々や地域の方々にも興味・関心がある「生活習慣病」をテーマにした講演も内容として取り上げるなど、より多くの意見等が得られるよう工夫をして開催されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所の相談窓口のほか、市町村や第三者委員など、広く相談できる場所があることについて、しっかり説明・お知らせしているが、今のところ、特に出されている苦情や要望はないとしている。家族からの意見等については、家族間で統一されたものであるか、しっかり事実を確認しながら、対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	普段は、散歩や回覧等などを通じて近隣と付き合いを重ねるほか、法人主催の夏祭りなどに参加、多くの方と交流して絆を強くしている。地元町内会のほか、地域の振興会にも加入しており、年々、敬老会等の諸行事に会員事業所として参画する機会が増えている。

## 2. 評価結果(詳細)

確定日 平成21年5月25日

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である人類愛の精神に基づき「①地球環境を守りながら、国際的視野に立ち行動します。②地域住民のために最善の全人的保健・全人的医療・全人的福祉・全人的介護サービスを提供します。③受けての方々の生命及び尊厳を守ります。」を職員で事業所理念として確認し合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや毎月の隣接事業所合同会議、運営推進会議等において、理念(全人的ケア)を確認しあうとともに、「アリスでの生活」(※)という、具体的な利用者の過ごし方を定め、理念の実現に向けて、ケアに当たっている。理念は、玄関に掲示するとともに、重要事項説明書にも記載して職員や利用者・家族の共有にも努めている。		※「アリスでの生活は～①ゆとりを持った生活。②馴染みの生活。③やすらぎのある生活。④とがめられない生活。⑤いきいきとした生活。⑥地域社会との交流。」
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	普段は、散歩や回覧等などを通じて近隣と付き合いを重ねるほか、法人主催の夏祭りなどに参加、多くの方と交流して絆を強くしている。地元町内会のほか地元の振興会にも加入しており、年々、敬老会等の諸行事に会員事業所として参画する機会が増えている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たっては、管理者の作成した案について、全職員がそれぞれ自己点検も併せて目を通し、意見を出しあっている。毎年の自己評価・自己点検を通して、困難ケースへの前向きなケア(全人的ケア)を通して、職員の成長が見られるとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひな祭り、全人会祭り、月見会、クリスマス会のパーティーに併せて年に4回開催されている。利用者・家族、委員の方々や地域の方々にも興味・関心がある「生活習慣病」をテーマにした講演も内容として取り上げるなど、より多くの意見等が得られるような工夫をして開催されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議や口腔ケア研修などに参加して情報交換をしている。今後とも、定期的な運営推進会議や実地指導などの場を通して行政機関の方々と意見交換をするほか常に連絡を取り合いながら、事業所の地域密着に努めたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	法人で発行する「全人会クラブ」(6、9、12、3月)で、利用者の暮らしぶりなどについて、家族にお知らせするほか、運営推進会議(年4回)でもその報告をしている。容態急変等、必要に応じて、メールやファックスを活用するなど報告にも工夫をしている。預かり金等金銭管理については、誤解やトラブル発生の危険性を回避するため行なっていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の相談窓口のほか、市町村や第三者委員など、広く相談できる場所があることについても、しっかり説明・お知らせしているが、今のところ、特に出されている苦情や要望はないとしている。家族からの意見等については、家族間で話し合われたものであるかを事実確認しながら対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が利用者に関わりを持てるような体制(夜間勤務など)が工夫されている。この顔見知りの関係の確保によって、止むを得ない異動があっても、ダメージは最小限に抑えられるとしている。さらに、新任の職員については、概ね2週間ほどのトレーニング期間を設定するなど、利用者との馴染みの関係づくりがしっかりと出来るような工夫もされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム全国大会での発表を目標にした研修や協力病院の内外研修にも参加するなど、全職員を挙げて研修に取り組んでいる。職員の資格取得への後方支援にも積極的に努めており、その支援により介護支援専門員や准看護師の資格を取得した職員がいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	家族介護教室やパーティー等、事業所主催の行事等については、常に同業者の参加を得て、相互交流や情報交換を行なっている。法人(事業所)のホームページ掲載の最新の関係情報の照会・回答などを通して交流も行われている。全国のグループホーム協会に加入し、全国的な広い視野に立った情報発信や情報収集・情報交換も行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、利用者・家族の自宅を訪問して、利用者本人の思いや生活実態を聴いたり観察したりするほか、「入居時調査票」を家族に記入してもらい、しっかりと状況を把握してから利用につなげている。全職員が、その情報を共有しつつ、気づきやその後の支援に役立てるために、利用者の自宅での様子をビデオに撮るなどの工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者の「健全な精神活動では、利用者に叱られたり、職員が反抗したり、それを他の職員がとりなしたりすることも重要である」という考えの下、利用者の思いを受け止めつつも、利用者の行為や言動等の全てを受入れるという姿勢ではなく、状況に応じて必要な対応を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族の思いや希望などについて、家族から「入居時調査票」に記入してもらい支援に当たるほか、その後「入居後調査票」(職員記入)により、その変化の把握や更なる支援のフォローアップ、職員のケアの再確認にも努めている。支援経過記録には利用者の「行動をそのまま書く」「言葉をそのまま書く」など、後にも役立つ記録を工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「入居時調査票」(家族記入)や前居宅ケアマネの情報などを基にして、計画作成担当者が原案を作成し、管理者等全職員で協議・確認しあい計画を作成している。ケアプランは、ケア目標に沿って、いつ・どこで・だれが関わるかということを、具体的に明記するなど、現実的なケア対応が記載出来るよう様式も工夫されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には、概ね3ヶ月の短期目標の期間を目安に、「入居時調査票」に対応した「入居後調査票」(担当者記入)を基に、家族等の意見を聴きながら管理者等全職員で評価・見直しを行っている。利用者の状態変化等には、速やかに見直しを行うように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	普通の散歩やドライブ、お茶などの買い物や行きつけの理美容院への対応など、利用者の思いつきや希望に沿った柔軟かつ臨機応変な外出支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院同行は家族を基本としているが、緊急等やむを得ない場合には、職員同行にも柔軟に対応している。とりわけ、家族同行に際しては、医師・家族との連携に配慮し、利用者の状態等を細かに記載した「医療機関受診時の情報票」を持参させるなど、その工夫が特筆される。かかりつけ医は、それぞれ利用者・家族の希望する医師となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化等における医療連携の対応指針を定めて、家族に説明・同意を得ている。具体的な終末期等への対応については、利用者の状況変化を見ながら、家族等と連絡を密にし、情報を共有し、訪問看護ステーションとの連携を図りながら、事業所としての対応を考えていきたいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の特性、生活歴などを「入居時調査票」で把握し、利用者それぞれに応じた言葉かけや入浴介助等の接し方等に努めている。支援経過記録等の個人情報については、専用の箱に整理保管して職員が管理をするなど常に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「生活のペース」や「どんな過ごし方を望むか」など「入居時調査票」から把握をしながら、起床や食事、入浴などに、それぞれの時間やペースで過ごすことができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「好きな食べ物」「嫌いな食べ物」について把握しながら、それぞれの好みに配慮した献立・調理で支援している。利用者には出来る限り最後まで、食べる楽しみを失うことがないように細やかに配慮して、咀嚼や嚥下機能の低下にも対応・支援している。食事の席も、自然と定まり、職員・利用者が気遣いあいながら、静かに美味しく食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の嫌いな方には、「あきらめない」「無理強いはしない」を心がけ、粘り強い支援に努めている。入浴は、毎日、午後入浴を基本として対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生会やパーティーでの発声など、スポット的でもそれぞれの役割を担ってもらうことを心がけている。行きつけの店に行って会話や買い物をして楽しんだり、花見などのドライブで気晴らしをするなど、思いの場所に行き変化のある生活を実感できるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の思いや天候をみながら、春は桜、秋は紅葉など、時々ドライブに出かけている。普段は、食材の買出しや、こだわりの専門店からのお茶の仕入れなど、思い思いの時・場所にも出かけ楽しみ、気晴らしをしている。冬など寒い時期は、居室とリビングとの往来など、運動不足解消に工夫を重ねたいとしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を理解しており、「鍵をかけない」ケアに努めている。玄関は自動ドアで夜間だけの施錠に止めている。居室には、鍵の設置はなく、時々思いのまま外出する利用者はいるものの、安定するまで見守りや声かけなどで時間をかけて対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する同法人堂のデイサービスセンター、グループホームと一緒に避難訓練を実施しており、相互に24時間体制での協力体制をとっている。近隣の方々とは何かあったら協力をいただく関係は出来てはいるが、まだ具体的な災害の協力体制・ネットワークを作るまでには至っていないとしている。	○	地震等自然災害を含めて、災害対応や協力体制について、推進会議の協議・意見等を得ながら、その検討に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援経過記録や業務日誌に食事や水分の摂取状況について、記録し共有している。糖尿病など特に注意が必要な利用者については、過不足について職員が見守りをしている。病院受診時には、アルブミン値を測定し、栄養バランスについては、法人の栄養士から小まめな報告書により指導・アドバイスを受けるなど、その適正支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事づくりへ気軽に参加・声かけができる対面式の家庭的な台所の造りになっている。食卓テーブル・椅子のほか、オルガンやテレビ、ソファや畳張りの腰掛椅子なども置かれ、それぞれの思いで過ごせる場所が確保されている。高い天井、大きな窓、ベランダの設置など、内からも自然や四季を感じながらゆったりと過ごせる共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンス、仏壇やドレッサー、表彰状やトロフィー、孫の写真等を持ち込んで、利用者が、それぞれ自宅の延長線上で自分らしく個性豊かに過ごしている様子がうかがえる。9つの各部屋それぞれに春の七草などの名前が表札代わりに掲げられている。		